

令和6年度 養父市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員： 3名

2 認知症地域支援推進員の役割

地域における医療及び介護の連携強化並びに認知症の人及びその家族に対する支援体制の強化を図る

(1)認知症の人等に対する適切な支援の検討及び関係機関の連携、調整等

(2)認知症の人等を支援する社会資源の情報収集及び提供

(3)認知症の人等への支援を行う関係者に対する研修会、交流会等の実施

(4)市民等に対する認知症に関する正しい理解の普及啓発

(5)認知症支援ネットワーク会議の運営

(6)地域ケア推進会議への提言

報告者氏名： 養父市地域包括支援センター
保健師（認知症地域支援推進員） 芦川 琴乃

養父市 認知症施策全体図

2. あんしん福祉の推進

あんしん福祉の推進 基本目標2	施策の方向	具体的施策
	(1) 介護保険サービスの円滑な提供	①介護保険サービスの質の向上
		②人材の確保
		③介護保険制度、介護保険サービス等の普及啓発
		④介護保険サービスの整備
		⑤サービス提供体制の整備に関する考え方
		⑥介護保険サービスの適正かつ円滑な運営
	(2) 介護予防・生活支援サービスの充実	①総合事業による日常生活支援の推進
		②多様なサービスの充実
		③生活機能向上サービスの充実
		④地域リハビリテーション活動支援事業
		⑤高齢者福祉サービスの充実
	(3) 認知症施策の推進	①認知症予防・早期発見の推進
		②認知症医療体制の充実
		③認知症地域連携体制の強化
		④認知症ケア人材の充実
	(4) 安心・安全なまちづくり	①生活安全施策・事業の推進
		②福祉環境施策・事業の推進

標題 認知症の本人の声をカタチにする

★長寿の郷の研修会に参加

- 【目的】本人の発言を拾い、本人の希望や想いをカタチにする
- ・認知症の本人の支援が「家族の介護負担の緩和」のためのサービス利用になり、認知症である「本人」の希望や想いを実現できないことが多い。
 - ・本人のこれまでの生活や望みを反映し、本人のもつ能力を活かした支援を考えることが認知症共生社会には必要。



まずは一人でも、本人の希望がかなえられるようにするため、
1 事例について関係者で話合うことに…

参集者：ケアマネジャー、社協ふれあい訪問員、生活支援コーディネーター、地域の認知症カフェ実践者、市保健師（認知症地域支援推進員 2 名）、コミュニティナース、長寿の郷セラピスト

【内容】

①本人の声を集める

「お菓子作りがしたい」「同年代がいい」「料理がしたい」「外出したい」「近い人はいや」「あったらする」

②本人の性格や特徴・認知症の症状

年齢層が合わないとなじみにくい、日付が分かりにくい、実行が助言が必要



- ・同年代で料理などの活動が楽しめる場
- ・支援者がおり、指示を受けながらやりたいことができる
- ・日付が分かりにくいので、誘う人をつくる

③誰が・いつするか・どんな場かを具体的に決める

実現するためのプロセスで必要な段階に合わせどのような人が関わるか、関わる時期も決定

【第2回で状況を確認】

進捗状況、実践した結果の確認

- ・その場に参加できたか→ 候補に挙げた3つのうち、1つに参加
- ・何をしたか → ケーキのかざりつけ
- ・誘いだしや声掛け → 第1回で決めた人が誘い出したり声をかけることができた
- ・いつしたか → 決定したスケジュールに沿って本人に参加を促せた

実践してみて…

①本人の声に集中して向き合うこと

どんな声があったか、本人発信の情報を大切にすることを意識づけられた。
必要なことを具体的に検討することで、
本人を実際に活動に結び付けることができる好事例ができた。

②様々な職種との連携

関係者が集まることで、本人に対する支援の現状と本人の声の全体像が分かりやすくなった。
誰が何をすべきかその場で決めることができ、連携した動きができた。

認知症地域支援推進員として…

★本人の声を聴ける・活かせる推進員へ★

認知症の本人と出会い、声を聴き、本人が本人らしく生きることを支えたり、本人らしく生きることができる地域づくりをすすめたい。



• 最後に…

認知症地域支援推進員としての思いなど

•地域関係者にむけたメッセージや次年度に向けた抱負などの記載をお願いします。